



Art of Oral Science Summer Meeting

7.29.2012 AP横浜駅西口4F

10:00～ 榊原 毅

座長；清水、木村

「IATを用いた上部構造を使用した1症例」

インプラントの上部構造について、どのような材料、構造のものが理想的なものであるのかはまだわかっておらず、また何を重要視して作製するのかもドクターにより、あるいは症例により異なる。今回 Intraoral Adhesive Technique（飯島先生提唱）で作成した上部構造を用いた症例を発表します。

10:30～ 須田 雄一郎

「ジルコニアカスタムアットメントとインプラント上部構造」

インプラント技工に携わるようになってまだ一年足らずですが、今回このような自由な発表の機会をえて、普段臨床で製作しているジルコニアカスタムアットメントとその上部構造の製作工程などを紹介したいと思います。

11:00～ Coffee Break

11:10～ 齊藤 勇

「ジルコニアの現実とロングスパンブリッジ修復の手順を再考する」

フルカウンタージルコニアの登場により、ジルコニア修復の種類が多様化したことでオールセラミックス修復の適切な選択を整理する時期にきているように感じる。また、ロー付けのできないジルコニアロングスパン修復において従来の修復手順では対応できない現実がある。今回は、オールセラミックス修復材料の選択基準・印象精度・模型精度に焦点をあてて発表したいと思う。

11:40～ 榎本 明史

近畿大学医学部附属病院 口腔外科

「新規歯科用インプラントドリルガイド」

歯科インプラント治療では、インプラントフィクスチャーを理想的な位置に埋入することが重要であり、インプラント治療の成功にとってきわめて重要であることが周知されている。インプラントフィクスチャー埋入の成否はフィクスチャー埋入孔を形成するためのドリリングによるところが大きく、埋入の設定と計画通りの実施がきわめて重要になる。こういったことから、現在、広く使用されているサージカルガイド系のシステムが埋入時に使用されており、ドリリング時に有効な器具として使用されている。しかしながら、サージカルガイド作製自体の高額な費用や、サージカルガイド自体のスリーブのあそび、自体のがたつきや、たわみ、視野の妨げなどの問題もあり、実際の臨床使用度は、きわめて低いことも知られている。その結果、歯科インプラント埋入は、フリーハンドにてなされることが多く、そのドリリング操作は、各歯科医師の匠の技にゆだねられるところが多い。

私たちは、ドリリングを安全に、簡単かつ低コストに実現し得る歯科インプラントドリルガイドを提供することを目的とし、新規の便利ガイドを提案し、その有効性を発表する。

12:10～ Lunch Time

20～ ランチョンセミナー（大信貿易）60min

13:30～ 関山 治樹

座長；柴垣、大殿

「私達のイノベ（イノベーション）はどこだ？」

今の先の読めない世の中、これからどのように進んで行けばよいのか新しい価値創造、流行りのイノベをからめ自分で考える事の重要性を主題にします。後悔のない生き方をしたい、と今更ながら考え始めた演者が、おもに技工士の立場での日頃の考察を主にお話したいと思います。 ネガティブさ満載です。

14:00～ 渡邊 麻貴

「インプラントを長期的に安定させるための秘訣」 歯科衛生士の立場から

歯科衛生士がインプラントを長期的に安定させるために出来ること、メンテナンスについてお話させていただきます。

14:30～ 室木 貴行

「MENTE、してますか!？」

短期的急性インプラント周囲炎になったケース、中期的慢性～急性を繰り返すケース、長期的にインプラント周囲炎を避けたいと予防に取り組むケースを紹介し、皆様からのアドバイスをお願いします。

15:00～ Coffee Break

15:10～ 上野 大輔

座長；宝崎、安藤

「インプラント外科手術に必要な骨移植材の基礎知識」

骨移植材料は①自家骨、②他家骨、③異種骨、④人工骨に大別される。理想的な骨移植材は生体親和性が高く、骨伝導能、骨誘導能、骨形成原細胞を有することである。骨伝導能とは既存骨から移植材に毛細血管や血管周囲組織、骨前駆細胞を浸潤させるための足場を提供する能力で、程度の差はあるものの、上記の移植材すべてに持ち合わされている。骨誘導能は未分化な間葉系細胞を軟骨や骨形成細胞に分化させることで、能動的に骨を作り出す力である。骨再生にとって重要な要素であるが、自家骨を除く骨移植材では限定的もしくは欠如している。そのため、自家骨移植は現在においてもゴールドスタンダードと言われている。しかし、採取量によっては手術部位と別部位にドナーサイトを求める必要がある。侵襲性や骨採取に要する労力を軽減する目的で、近年、欧米において骨補填材を用いた骨移植が一般的な選択肢になってきている。

本会では①骨移植材の種類と性質、②海外での治療成績について移植術式別に文献的レビューを行い、骨補填材使用の利欠点、適応について再考したい。

15:40～ 櫻井 誠

「Pulse oxim eter-derived Perfusion Indexの下顎臼歯部インプラント埋入手術時

下顎管接近指標としての検討」

インプラント埋入時における下歯槽神経損傷は避けなければならない。これを予防するためには術前のCT撮影による画像診断が有用である。

術中の予防法として、適切な埋入深度と患者からの感覚聴取があげられるが、生理反応を応用した客観的な指標が望まれる。末梢循環における灌流指標（Perfusion Index：PI）は痛み刺激の指標となることが報告されており、インプラント窩形成時の下顎管との距離の指標となりうるかどうかを検討した。

16:10～ Coffee Break

16:20～ 柴垣・大殿

「ASTRA WORLD CONGRESS」に参加して

16:45～ 総括

～17:00 例会 終了 予定

17:30～ コンセンサス会議

会場；Tapa Tapas（ハマポール1F） 会費；¥3,000